

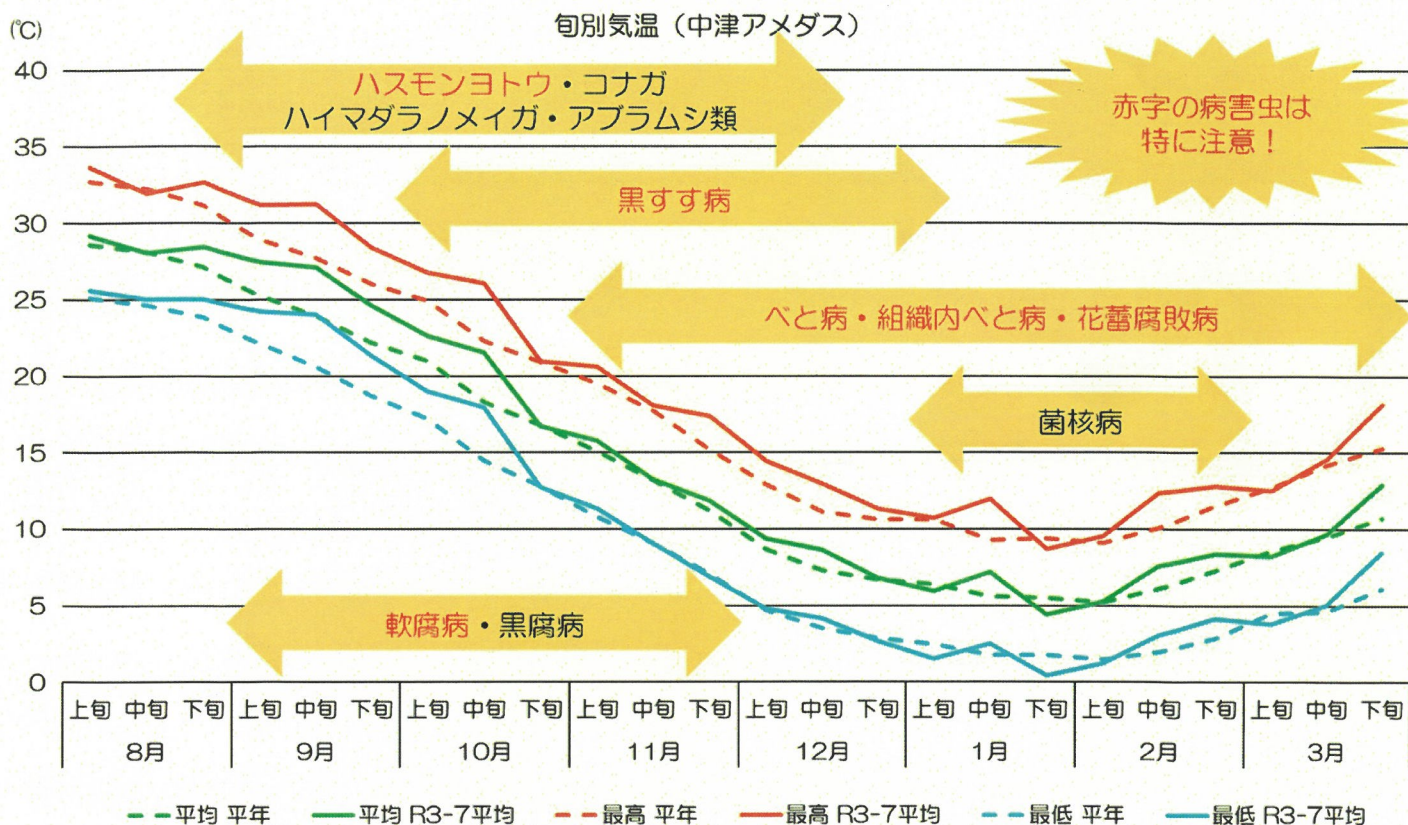
ブロッコリー病害虫防除対策資料

R8.9月 京築普及指導センター・JA福岡京築

～病害虫防除のポイント～

- ①計画的な防除で病害を発生させない、害虫は初発で抑える
- ②抵抗性発達防止のため、同一RACの農薬は連用しない
- ③雑草は病害虫の発生源となるため、除草剤で駆除する

1. 主な病害虫発生様相：およその発生時期を把握して計画的に防除しましょう。
*発生時期は天候によって変わるため注意！



2. 防除計画例：以下を参考に計画的に防除しましょう。

時期	殺菌剤	ベと病	黒すす病	菌核病	軟腐病	花蕾腐敗病	希釈 倍数	使用時期 (収穫前)	使用 回数	F R A C	殺虫剤	ハスモン ヨトウ	コナガ	ハイマダラ ノメイガ	アブラムシ 類	希釈 倍数	使用時期 (収穫前)	使用 回数	I R A C
定植 2～3週後	シグナム WDG	●	●	●			ベと病 1500～2000倍 他 1500倍	7日前 まで	2回 以内	11 7	トルネードエースDF または モスピラン顆粒水溶剤	●	●			2000倍	14日前まで	2回 以内	22A
													●		●	2000倍	14日前まで	3回 以内	4A
定植 4～6週後	コサイド 3000				●	●	花蕾腐敗病 1000倍 他 2000倍	—	—	MO1	ブレオフロアブル または コルト顆粒水和剤	●	●			1000倍	7日前まで	2回 以内	UN*
															●	4000倍	前日まで	3回 以内	9(B)
出蕾前	ランマン フロアブル	●					2000倍	3日前 まで	3回 以内	21	グレースシア乳剤 または ウララDF	●	●	●		2000 ～3000倍	7日前まで	2回 以内	30
															●	2000 ～3000倍	前日まで	2回 以内	29

*使用方法は全て散布、殺虫剤は発生害虫に応じてどちらか1剤を選択

*コサイド3000の黒腐病・軟腐病は「野菜類」での登録

シグナムWDG・グレースシア乳剤は「はなやさい類」での登録

☆ブロッコリーは薬液をはじきやすいので、展着剤を添加しましょう☆

例：ブレイクスルー 5,000～10,000倍希釈 (泡立ち防止のため、薬液調製後に添加)

3. 補正防除：病害が発生、または害虫が多発した場合、以下の農薬でローテーション防除を実施しましょう。

分類	農薬名	適用病害虫	使用時期 (収穫前)	希釈倍数	使用回数	RAC
殺菌	アミスター20フロアブル	べと病、黒すす病、菌核病	前日まで	2000倍	3回以内	F:11
	アフエットフロアブル	黒すす病、菌核病	前日まで	2000倍	3回以内	F:7
	レーバスフロアブル	べと病	7日前まで	2000倍	2回以内	F:40
	トップジンM水和剤	菌核病	14日前まで	2000倍	2回以内	F:1
	スターナ水和剤	軟腐病、花蕾腐敗病	14日前まで	2000倍	2回以内	F:31
殺虫	アフーム乳剤	ハスモンヨトウ	3日前まで	2000倍	3回以内	I:6
		コナガ		1000~2000倍		
	ディアナSC	ハスモンヨトウ、 ハイマダラノメイガ、コナガ	前日まで	2500~5000倍	2回以内	I:5
	ヨーバルフロアブル	ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、 コナガ、アブラムシ類	前日まで	2500~5000倍	3回以内	I:28
	フィールドマストフロアブル	ハスモンヨトウ、 ハイマダラノメイガ、コナガ	3日前まで	4000倍	2回以内	I:4E

*使用方法は全て散布

*アフエットフロアブル・フィールドマストフロアブルは「はなやさい類」での登録

4. 雑草対策：雑草が繁茂すると風通しが悪くなり、病害虫のもとになります。茎葉散布の除草剤を使用して、駆除しましょう。

<薬剤例>

農薬名	適用雑草	10aあたり使用量		使用回数	使用方法
		薬量	希釈水量		
バスタ液剤	一年生雑草	300~ 500ml	100~ 150L	2回以内	雑草茎葉散布

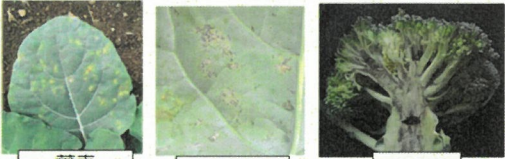
*バスタ液剤の特徴・注意点

- ・作物にかからないよう注意！飛散防止カバーを使用！
薬液がかかった植物だけを枯らすため、雑草だけでなく作物も枯らす
- ・効くまでに日数がかかる
散布後2~5日で効果が発現し、7~14日後に効果が完成
- ・草丈15~30cmを目安に散布
雑草が大きくなりすぎると効果が低下する
- ・雨天を避けて散布
散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがある

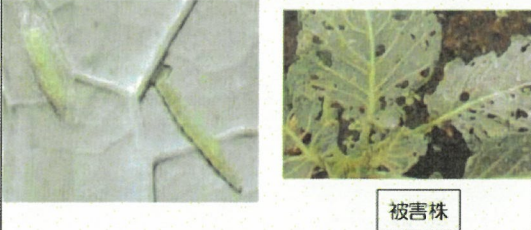


飛散防止カバー例
(出典：ヤマホ工業HP)

5. 病害の特徴：適切な農薬の選択のため把握しておきましょう。

病害名	特徴	ポイント
べと病・組織内べと病  葉表 葉裏 組織内	べと病 ・下葉から発生。 ・葉に黄色く角ばった不正形の病斑が発生しその後、葉裏に霜状のカビが生じる。 組織内べと病 ・花蕾内部が褐変する。	・適期追肥を徹底する。肥切れで発生が助長、過剰施肥で病害が助長される。 ・10～11月の予防防除が効果的。
黒すす病 	・年内が暖かく、降雨が多いと発生しやすい。 ・葉に褐色輪紋状の病斑が発生する。 ・花蕾は黒色の小斑点が生じた後に拡大、黒褐色に腐敗し、周囲の蕾が黄変する。	・降雨前後に注意して予防防除を行う。
菌核病 	・株元に雑草が繁茂しているなど、多湿条件で発生しやすい。 ・地際部に白色の菌糸およびネズミの糞状の黒色菌核が発生し、その後、株が枯れる。	・発病株は感染源となるため、抜き取ってからのほ場外処分を行う。
黒腐病 	・年内に降雨が多く、風の強い日が多いと多発しやすい。 ・葉のふちからV字状に黄変する。激発すると下葉から枯れる。花蕾の黒変を伴うこともある。	・虫害痕からも感染するため、害虫防除も徹底する。
軟腐病・花蕾腐敗病  軟腐病 花蕾腐敗病 出典：タキイ種苗HP 出典：朝日アグリアHP	・花蕾が腐敗する。出蕾後に降雨が多かったり、霜が降りたりすると発生しやすい。	・出蕾前後の予防防除が効果的。※銅剤（コサイド3000など）は、出蕾後の使用で葉害の恐れがある。※出蕾後に防除する際は使用時期（収穫前日数）に注意。

6. 害虫の特徴：適切な農薬の選択のため把握しておきましょう。

害虫名	特徴	ポイント
ハスモンヨトウ  卵塊 若齢幼虫 体長1cm以内 中齢幼虫 老齢幼虫	・葉裏に数100個の卵（卵塊）を産みつける。 ・ふ化後、しばらくは群れで葉を食害するため、いっきに葉を食いつくす。花蕾にも侵入する。	・卵塊やふ化直後の幼虫を見つけたら、葉を取り除き処分する。 ・中齢以降になると薬剤が効きにくいので、早期の防除が重要。
コナガ  被害株	・1cm前後の小さなアオムシ状の虫。 ・葉裏に寄生して、表皮を残して食害する。	・葉のかかりにくい中心葉に潜むことが多いため注意。早期の防除が重要。
ハイマダラノメイガ  成長点付近の食害	・成長点を食害するため、幼苗期に食害されると株が芯止まりする。	・早期の防除が重要。成長点付近に潜むため注意。
アブラムシ類 	・茎葉、成長点に寄生する。 ・収穫期間近に多発すると、花蕾へ混入するため注意。	・葉裏に潜んでいるものに対しては、浸透移行性のある殺虫剤が効果的。

病害虫の発生を抑え、品質・収穫率を高めていきましょう！

〔 本資料の農薬登録情報は
2026年9月1日登録反映時点で確認 〕